

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 12 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520843

研究課題名(和文)国民的歴史学運動の京都地域における定着と社会的影響に関する研究

研究課題名(英文)A Study on Infiltration and Social Impact of National History Movement in Kyoto Area

研究代表者

田中 聡 (TANAKA, SATOSHI)

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：10368011

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、1950年代の国民的歴史学運動が京都地域や歴史学研究に及ぼした影響について明らかにする。2007～2010年度科研の成果を基盤とし、1960年代以降の京都地域住民の歴史意識の変容と歴史学研究との相互関係等について、新たな地域資料をもとに考察を進めた。

今回の成果は、奥丹後教職員組合資料の目録の完成、歴史学者の資料収集(津田左右吉・三品彰英・横田健一)、東日本大震災被災地域住民の踏査・比較研究、京都地域資料の発掘(青木完一・岩崎革也・上羽絵惣・大槻隆・田島征彦・林弘子・吉見敏夫)等であり、これらの資料の目録・解題や関連研究論文を冊子報告書にまとめた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is the following two. The first is to understand the infiltrating process of National History Movement in Kyoto area (Kyoto-city and the neighboring areas). The second is to clarify the influence of this cultural movement on local communities and academic historical studies. I took up and considered time of the after 1960 's about the influence a historical science study exerted on local resident's history consciousness in Kyoto area. There are 4 main outcomes of this study. (1) A material list of Okutango(The north in Kyoto-fu)teacher's union completed. (2)new material finding of Japanese historian. (So-kichi Tsuda, Shouei Mishina, Ken-ichi Yokota) (3)survey of disaster area residents of an eastern Japan great earthquake. (4)resource acquisition of Kyoto local residents(Kan-ichi Aoki, Kakuya Iwasaki, Ueba-esou, Takashi Otsuki, Yukihiro Tajima, Hiroko Hayashi, Toshio Yoshimi) I gathered study results with some cooperators and issued a book report.

研究分野：歴史学研究が地域住民の歴史意識に及ぼす影響の史学史的研究

キーワード：日本近代史 史学史 教育史 データベース

## 1. 研究開始当初の背景

(1)1950年代初頭を中心に全国各地で展開された国民的歴史学運動は、マルクス主義の図式的理解をもとに実態から遊離した地域史を提示する等の弊害を生んだが、他方では学校教育への地域史教材化、文化財保護運動の認知・活発化、住民による地域史サークル活動等が生まれるなどの成果も現れた。近年、全国で生活記録サークル運動の掘り起こし・再評価が進みつつあり(『現代思想 総特集戦後民衆精神史』青土社、2007年。安田常雄編『シリーズ戦後日本社会の歴史 社会を問う人びと 運動のなかの個と共同性』岩波書店、2012年)、また教育史においては、戦後の京都府で行われていた「郷土教育」に関して、聴き取り調査も活かした分析が行われている(小林千枝子『戦後日本の地域と教育 - 京都府奥丹後における教育実践の社会史 - 』学術出版会、2014年)。

(2)関西とくに京都においては、この問題に関する基礎的な資料の調査が不充分であった。そこで申請代表者は、2005年に上記の目的意識を共有する京阪神の大学非常勤講師・院生など若手研究者とともに「戦後歴史学ワーキンググループ」を編成し、基礎的な資料についての情報収集・調査を開始した。2007～2010年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(c)「国民的歴史学運動の京都地域における展開過程に関する研究」(以下、前科研)において、従来ほとんど研究対象として認知されていなかった京都府下の二つの教職員組合、京都教職員組合(京教組)・奥丹後地方教職員組合(奥丹教組)所蔵の資料群を整理し、初めて一部を目録化した。また元教職員や歴史学の研究者の聴き取りを行い、記録・資料化を進めた。その結果、1950年代の教職員組合主導の文化運動や政治運動の一端が具体的に解明された。また京都民科歴史部会所蔵資料の紙芝居「祇園祭」(1952年)を35mmフィルムから復元し、大学生・院生らの紙芝居サークルの協力のもとで再現上演を行い、京都における国民的歴史学運動の具体的展開や影響について考察するための貴重な資料を再発見出来、調査の過程でさらに追究すべき研究課題が見つかった。

## 2. 研究の目的

(1)前科研での研究蓄積を基礎に、当運動の京都地域における展開と定着の過程をとらえ、地域社会や歴史学研究への影響について明らかにする。こうした運動のアクターとなった教育関係者、地域住民などについて情報・資料を収集し、分析を行うとともに、他地域との比較を進める。

(2)歴史学研究(者)と地域とを結びつける接点・契機という視点から、長い時間幅を

とって当運動終焉後の状況について再考し、京都地域の歴史意識の独自性を解明する。また、こうした地域での動向と対応する日本歴史学の全体的な潮流について、戦前から戦後にかけての見通しを立てるため、重要な歴史学者について基礎資料を収集する。

## 3. 研究の方法

(1)前科研の「戦後歴史学ワーキンググループ」に新たな研究者・大学院生・学部生を加えて研究組織を刷新し、年数回ペースで京都府峰山町の京丹后市史編さん室にて所蔵資料の調査および奥丹教組資料の目録補正・チェック作業を進めた。

(2)1960～70年代京都地域における住民の歴史意識の変容と専門的な歴史研究との相互関係等について考察するため、3つのテーマに関して基礎となる資料の発掘・収集、整理を行った。日本史学史・京都地域史研究者の資料収集、東日本大震災被災地域住民の歴史・現状認識に関する記録資料、京都地域の文化・教育関係資料。可能な限り聴き取り調査を継続的にを行い、記録した。

## 4. 研究成果

(1)奥丹教組資料目録を完成させ、テーマ別の解題を付した。また前科研にて目録化した京教組資料について研究協力者(富山仁貴)が論文「戦後京都における学校教員の社会運動と文化 1950年代における教員組合運動の歴史的位置」(関西学院大学大学院文学研究科修士論文、2015年1月)を作成し、これらにより京都地域の教職員組合資料群の全貌が明らかになりつつある。これらの研究成果は冊子報告書(以下、本科研報告書)にまとめ、関係各所に配付した。

(2)日本史学史や京都地域史における重要人物の資料収集・聴き取り調査を行い、以下について記録を蓄積した。

三品彰英の弟子として戦後の京都における古代史学界を領導した横田健一氏(2012年逝去)もと京都市立小学校長でNHK小学校4年生社会科ラジオ劇活動にも長く関わった林弘子氏の聴き取り調査を行った。没後50年を迎えた津田左右吉の生涯に関する展覧会(美濃加茂市民ミュージアム)を見学し、郷里での足跡をたどった。これらの検討を踏まえ、研究代表者の2論考(子安宣邦編著『日本思想史』、『京都戦後史学史研究会 研究成果報告書』)、研究協力者・中村聡の論文「津田左右吉の「民族」・「国民」観」(本科研報告書所収)が執筆・公表された。

(3)京都以外の地域における住民の歴史意識と現状への関わり方について、比較研究

を開始した。本科研の初年度は、2011年3月11日午後発生した東日本大震災の影響が、日本社会全体に大きく残るなかで始まった。研究代表者をはじめ研究協力者(石黒衛・小澤卓也・志麻克史)は、年1~2回のペースで被災地域の踏査を行い、復興の現状について記録するとともに、各自治体や個人が記録した被災・復興状況に関する各種資料の収集を進め、被災された住民の方々の聞き取りも行い、「地域住民の地域に対する意識の変化」の問題が露わとなった。本科研報告書に掲載した志麻克史「東日本大震災 被災地調査報告」は研究協力者による詳細なルポルタージュである。

(4)新たな京都地域資料を発掘し、保管・活用手段を講じた。

京都市内の老舗絵の具商「上羽絵惣」旧蔵資料(明治末期の商家の生活が分かる資料群) 市立小学校教諭を長く勤めた吉見敏夫氏旧蔵の社会科ラジオ劇台本・教育資料群などを収集し、整理を行う。もと須知町長で丹波地方の名望家・岩崎革也氏生家の撤去に伴う京都府の緊急調査に参加して目録を作成し、もとBC級戦犯の大槻隆氏旧蔵資料を調査して簡易目録の作成を進めた。基礎調査を経、は京都産業大学むすびわざ館へ、については立命館大学国際平和ミュージアムへ、それぞれ寄贈に漕ぎ着けた。

(5)紙芝居『祇園祭』の関連調査を行う。前科研において復元上演した紙芝居『祇園祭』に関わり、立命館大学人文科学研究所からの研究助成を得て、映画版『祇園祭』に関わった大映の元カメラマン青木完一氏、絵本『火の笛』の作者田島征彦氏の聞き取り調査を行い、分析を行った。研究代表者および協力者(鈴木耕太郎・杉本弘幸・谷本由美・富山仁貴)による研究成果は別途、『京都戦後史学史研究会研究成果報告書』として纏め、刊行した。

(6)前科研・本科研の計8年間の検討により、京都府下における国民的歴史学運動に端を発する歴史研究の展開過程や、戦後における地域住民の歴史意識が、新出の資料を含めて具体的に解明された。また京都以外の地域との比較の視点も加え、「地域住民と歴史意識」を多面的に考察する材料が揃いつつある。これらを活かし、関心を共有出来る多様な研究者・市民とともに、調査や研究をさらに進めていきたい。

##### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計10件)

田中 聡、三品彰英と肥後和男の神話論、京都大学人文科学研究所共同研究『日本宗教史像の再構築』シンポジウム「宮座をめぐる冒険」2015年3月15日、京都大学(京都府京都市)

中村 聡、津田左右吉の「国民」観、田中隆一、戦後京都の米軍基地とその被害、杉本 弘幸、京都勤労者演劇協会事務局史料目録と解題、津田 壮章、自衛隊の国民への視線 - 1960、70年代の隊友会を中心に -、科学研究費・笹川科学研究助成金成果合同発表会、2015年1月11日、立命館大学(京都府京都市)

田中 聡、マンガのなかの蝦夷・アイヌ像と歴史学研究、神戸大学国際文化学推進センター研究プロジェクト「日本研究の文化資源学」研究会、2014年12月12日、神戸大学(兵庫県神戸市)

田中 聡、歴史マンガを読む、立命館土曜講座、2014年6月21日、立命館大学(京都府京都市)

田中 聡、地域史資料としての映画、日本史研究会6月例会、2013年6月22日、機関紙会館(京都府京都市)

田中 聡、歴史学からみた「京都学」の可能性と課題、立命館土曜講座、2013年6月8日、立命館大学(京都府京都市)

田中 聡、大学生による歴史学の追究 - 立命館夏期公開講座・同志社歴研を事例として -、戦後京都史研究会、2013年3月30日、京都市下京いきいき市民活動センター(京都府京都市)

田中 聡、歴史叙述とマンガを結びつける「差異の思考」、品川区人権啓発・社会同和教育講座、2012年10月15日、中小企業センター(東京都品川区)

田中 聡、日本近代における古代「夷狄」像の変容、東アジア文化交渉学会、2012年5月12日、高麗大学校(大韓民国ソウル特別市)

田中 聡、三品彰英の歴史学 - 新出資料を中心に -、京都歴史研究会、2011年11月12日、世界人権問題研究センター(京都府京都市)

〔図書〕(計6件)

小澤 卓也・田中 聡・水野 博子共編、教養のための現代史入門、ミネルヴァ書房、

2015 年、368

田中 聡、京都戦後史学史研究会研究成果報告書、北斗プリント社、2015 年、179

田中 聡、国民的歴史学運動の京都地域における定着と社会的影響に関する研究（本科研成果報告書）、2015 年、235

田中 聡、日本古代の自他認識、塙書房、2015 年、419

小林 文広編・田中 聡他、京都における歴史学の誕生、ミネルヴァ書房、2014 年、277

子安 宣邦編・宮川 康子・樋口 浩造・田中 聡共著、日本思想史、人文書院、2011 年、194

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

取得状況（計 0 件）

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

田中 聡 (Tanaka, Satoshi)  
立命館大学・文学部・教授  
研究者番号：10368011

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし

### (4) 研究協力者

青木友里(Aoki, Yuri)  
生駒佳也(Ikoma, Yoshiya)  
石黒 衛(Ishiguro, Mamoru)  
入山洋子(Iriyama, Yo-ko)  
岩田京子(Iwata, Kyoko)  
小澤卓也(Ozawa, Takuya)  
櫻澤 誠(Sakurazawa, Makoto)  
里井直彦(Satoi, Naohiko)  
志麻克史(Shima, Katsufumi)  
白木正俊(Shiraki, Masatoshi)  
杉本弘幸(Sugimoto, Hiroyuki)  
鈴木耕太郎(Suzuki, Ko-taro)  
谷本由美(Tanimoto, Yumi)  
樽本 修(Tarumoto, Osamu)

津田壮章(Tsuda, Takeaki)

富山仁貴(Tomiyama, Noritaka)

中村 聡(Nakamura, Satoshi)

福家崇洋(Fuke, Takahiro)

松川雅信(Matsukawa, Masanobu)

宮本敦恒(Miyamoto, Nobuchika)

山口一樹(Yamaguchi, Kazuki)